

令和6年度 第1回地域包括支援センター運営協議会 会議要旨

開催日時：令和6年8月28日(水)13:30～14:30

開催場所：多治見市役所駅北庁舎4階大会議室

出席委員：山田隆司委員、後藤達彦委員、小栗武仁委員、井澤吉英委員、平井純子委員、佐藤美千世委員、櫻井きよみ委員、野々垣直美委員

欠席委員：大前雄亮委員、加藤元子委員

事務局：加藤福祉部長、前田高齢福祉課長、丹羽智裕、渡辺洋一、大中博、前原友美、地域包括支援センター(中島徹、国立美保、春田正孝、水野磨意子、関谷早苗、大内真理子、棚瀬民依)

資料：1-1 令和5年度事業報告、1-2 事業詳細報告、2 令和5年度事収支報告、3 包括評価表、参考資料

－会議要旨－

1. 部長挨拶

地域包括支援センターにつきましては、本市の高齢者保健福祉計画の中でも地域包括ケアシステムの中核機関と位置づけております。近年では高齢者の支援につきましては大変複雑化、深刻化、多様化していることから、より一層重要な位置づけにあると認識してございます。

本日は、令和5年度の事業内容、収支等を報告させていただきます。委員の皆様方には、地域包括支援センター評価とそれぞれのお立場から御意見を頂ければ幸いです。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2. 委員、事務局紹介

3. 会長副会長の互選

会長：山田委員 副会長：後藤委員

4. 議事

(1) 令和5年度事業報告

<事務局> 資料1-1、1-2に沿って説明

<会長> 事務局の説明について、ご質問やご意見はありますか。

<委員> 意見なし

<会長> それでは5年度事業報告について承認したいと思います。

(2) 令和5年度収支決算報告

<事務局> 資料2に沿って説明

<会長> 以上の説明について、ご質問、ご意見はありますか。

<委員> 人件費について、精華包括のみ記載が無いがいかがか。

<包括> 法人が一括して計上しているため包括の収支には計上していない。

<委員> 収入の部、市受託金が包括によって金額にばらつきがあるのは何故か。

<事務局> 人件費、事業費単価は一律であるが、困難事例担当・認知症地域支援推進員は配置の有無がある。また、加算事業については実施回数によって差が生じている。

<委員> 収支差額でマイナスが生じている包括があるが、法人の持ち出しとなっているのか。

<包括> 5年度については年度途中で退職者がおり、引継ぎのため数か月人件費が重なったためマイナスとなった。法人内で施設を共有しており事業費(水道光熱費)を按分していることもある。

<会長> その他よろしいですか。それでは5年度収支決算報告について承認したいと思います。

(3) 令和5年度地域包括支援センター評価について

<事務局> 資料3に沿って説明。

評価方法は、各包括支援センターによる自己評価を基に7月16～19日にかけて、各包括支

援センターを訪問してヒアリングを実施し評価をしました。総評として相談件数やケアプラン数が増加する中、限られた人員で対応し、介護予防や認知症施策の推進、地域での連携等幅広く事業に取り組んでおり優良であったと評価し報告します。

<会 長> 以上の説明についてご質問、ご意見はありますか。

<委 員> 南姫包括の相談件数が大変多い中で、ケアマネやサービス事業所の相談が他と比べて多いが、独自で政策的に取り組んでいるのか。

<包 括> 特別な対応はしていないが、困難ケースも増えており、その支援でやりとりが増加している。また、日頃声掛けは心がけている。

<委 員> ケアプランが増えて大変との事だが、事業所に任せられないものか。また、市の見解はどうか。

<包 括> 総件数が増える中、事業所での受け入れが困難になっている。

<事務局> 今年4月の介護保険法改正により、要支援1、2の方のケアプランを直接ケアマネ事業所が受けることが出来るようになっている。多治見市では現在五つの事業所を指定しており、条件が合えば増やしていく方向である。

<委 員> 困難事例を支援するにあたり、支援者側も精神的な負担が大きいと思うがどのように対応しているのか。

<包 括> 令和4年度から困難事例担当者が配置され、各包括支援センターやケアマネの伴走支援をしている。市役所や関係機関との連携を図り、各ケースを一緒に考え支援することが、支援者の負担軽減につながっていると考えます。

<会 長> その他よろしいですか。それでは自己評価において課題とされたことについて解決できるよう期待します。以上をもって第1回の会議は終了します。